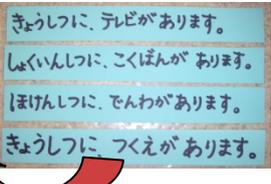


マルチレベルクラスの指導計画例	日本語レベルが異なる子どもを同一クラスで指導する計画例
-----------------	-----------------------------

	児童A	児童B	
日本語レベル	導入期 ・簡単なあいさつができ、生活に使われることばが少しわかる。 ・ひらがなの導入期。	初期前半 ・生活に使われることばがある程度分かり、簡単な文で受け答えができる。 ・ひらがな、カタカナの読み書きがおおよそ分かる。	
学習目標	・生活に使われることば(教室にあるもの)を聞いたり、話したりする。 ・ひらがな清音の読み書き。	・既習のことばを使って、簡単な文で話したり、書いたりできる。 ・かなの読み書きを定着させる。	
学習トピック 指導計画例	「持ち物」 「私の席/身の回りのもの」		
時間 活動の留意点	指導の流れ		
導入(帯時間) 5分程度 毎時間、反復練習をしながら、少しずつレベルを上げていく活動をする。	<p>会話(共通で)</p> <p>・前時までの会話の復習を兼ねて、子どもの日本語レベルに応じた質問や反復練習をする。<u>児童A</u>が答えられない時は、ヒントを与えたり、<u>児童B</u>にモデルになる表現を言わせたりする。 例：<u>児童A</u>には、定型表現で答えられる質問をする。 「元気ですか」「今日は何月何日ですか」「天気はどんな天気ですか」「暑いですか、寒いですか」等 <u>児童B</u>には、答えを自分で考えなければならない質問をする。 「今日は、朝何時に起きましたか」「起きてから、初めに何をしましたか」「朝ご飯は、何を食べましたか」等</p>		
15分程度 同じ活動の中で個に対応して難易度を変える。	<p>活動目標：物の名前を聞いて理解する</p> <p>初めに、<u>児童A</u>に「教室にある物の名前を3こ言ってください」と数を限定して言わせる。</p> <p><u>児童B</u>が言ったことばをTは正しい発音で復唱し、<u>児童A</u>が理解できるように指さして示す。</p>	<p>活動目標：簡単な文で話す</p> <p>次に、<u>児童B</u>に「A君が言わなかったものを、5こ言ってください。」<u>児童B</u>が単語で答えたら、「教室に～があります」と文で答えるように促す。(難易度をあげて言わせる。)</p>	
	<p>絵カードと文章カードを用意する。Tの言ったことばや文を聞いて、<u>児童A</u>は絵カード、<u>児童B</u>は文章カードを黒板に貼る。</p> <p>Tの発話例：<u>児童A</u>に対して「机」 <u>児童B</u>に対して「教室に机があります。」</p>		
	<p><u>児童A</u>用の絵カード</p> 	<p>黒板</p> 	<p><u>児童B</u>用の文カード</p> 

<p>15分程度</p> <p>個に対応した個別の指導。 Tと一緒に 行う活動と、自習 を組み合わせ て行う。</p>	<p>活動目標：物の名前を正しく言う</p> <p>会話 (Tと児童Aで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童Aには、再度、物の名前を言う反復練習をさせる。 	<p>活動目標：簡単な文を正しく書く</p> <p>文字 (児童Bの自習で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童Bには、黒板にはった文を書き写した後に、自分でもいくつか文を作って書かせる。
	<p>活動目標：ひらがなの読み書きを覚える</p> <p>文字 (Tと児童Aで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな指導 フラッシュカードで読み練習をさせた後、筆順や字形に注意してひらがなを書かせる。 	<p>活動目標：漢字の読み書きを覚える</p> <p>文字 (Tと児童Bで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の導入指導 フラッシュカードで読み練習をさせた後、筆順や字形に注意して漢字を書かせる。 ・宿題の指示。
	<p>文字 (児童Aの自習で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな書きの練習。 ・児童Aの書いた文字を確認し、間違いを訂正する。 ・宿題の指示。 	
<p>10分程度</p> <p>同じ活動の中で、個に対応して目標を変える。楽しく充実感を持って学習を終える。</p>	<p>絵本の読み聞かせ</p> <p>会話・文字 (共通で)</p> <p>活動目標： 文字に興味を持つ。 登場人物などキーワードを理解する。</p>	<p>活動目標： 内容を理解し、簡単な質問に答える。</p>

指導のヒント

1. 指導計画を考える時、日本語のレベルが異なっても共通してできる活動と、個別でしなければならない活動を組み合わせます。指導時間のすべてが、それぞれの個別指導では、指導者も二重に準備が必要となりますし、子どもも自習が多くなり楽しくありません。
2. 「共通でできる活動」であっても、個のレベルに対応する配慮が求められます。この指導計画例では、指導者は、質問の内容や活動のレベルの調整をしています。
3. 文字指導等は、特に個別のレベルに応じた対応が求められます。指導者が明確に指導しなければならない「文字の導入」と、自習が可能な「書きの練習やテスト」等を組み合わせます。「書きの練習」を自習させた場合、やらせっぱなしにしないで、必ず確認をして、間違いがあれば直させます。また、毎時間決まったパターンの指導であれば、子どもも自習がたやすくなります。マルチレベルの指導では、文字の指導にはある程度パターン化した指導が避けられないでしょう。
4. 教材は、絵カード、ワークシート等を、児童別のかごに分けて用意しておきます。教材を探したりする指導の隙間の時間があると、児童の集中力を欠くことになります。